

令和4年12月2日

保護者の皆さま

相模原市立相原中学校  
校長 渡部 賢一

## ～令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から～

令和4年4月19日に全国学力・学習状況調査が全国の第3学年生徒を対象に実施されました。相原中学校の生徒の結果について、校内において結果の分析を行い、本校のよい点や課題について整理いたしましたのでその概要をお知らせします。

なお、この本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂するのではなく、今後の教育活動に生かし、引き続き生徒一人ひとりの学力向上を目指し取り組んでまいります。保護者の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### 1 教科に関する調査からわかる本校生徒の特徴

#### 概要

- 国語においては、本校の平均正答率は全国や神奈川県と比べてやや高い状況にあり、またほとんどの設問において全国や神奈川県よりも正答率は上回っております。
- 数学・理科においては、本校の平均正答率は全国や神奈川県と比べて高い状況にあり、またほとんどの設問において全国や神奈川県よりも正答率は上回っており、高い理解力を示しています。また、ほとんどすべての設問に対して、無回答率が全国や神奈川県より低く、あきらめずに問題にチャレンジする姿勢も評価できます。

#### 教科別の特徴

- 国語では、「助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う」出題では、90%近くの生徒が正答し、全国の正答率を7ポイント以上、上回っています。
- 数学では、「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」出題では、正答率が51%であり、全国の正答率を13ポイント以上、上回っています。
- 理科では、「予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる」出題では、正答率が70%近くあり、全国の正答率を13ポイント以上、上回っています。

### 2 質問紙調査からわかる本校生徒の特徴（裏面 グラフ参照）

本年度学校経営の重点目標として、『互いのよさを認め合い、自己有用感・自己効力感を高める生徒の育成』を設定しました。この重点目標に関連する設問を中心に考察します。

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の回答では全国や神奈川県と比べて、肯定的な回答の生徒が多く、約88%います。規範意識が高い生徒が多く、多くの生徒にとって学校が安全安心な場になっています。
- 自己有用感の自覚を尋ねる問いである「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対しては、全国や神奈川県と同程度で、約94%の生徒が肯定的な回答をしています。
- △「自分にはよいところがあると思いますか」は自己有用感・自己効力感について、直接尋ねる問いです。全国や神奈川県に比較して、同程度の回答であり、78%の生徒が肯定的な回答をしています。ただし、「当てはまる」と答えた生徒は約25%にとどまっています。
- △「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」、「難しいことでも、失敗を恐れない

で挑戦していますか」の肯定的な回答は全国と同程度ですが、「当てはまる」と答えた生徒は5ポイント程低いです。言われたことはできる生徒は多いが、自ら挑戦する心はまだ十分ではありません。

### 3 今後の改善点やお願い

- 学校生活のあらゆる場面をとおして、「自己有用感(人の役に立った)」・「自己効力感(やればできる)」を高める生徒の育成に努めてまいります。また、生徒に挑戦しよう・やり遂げようとする意欲や自分の考えをもたせる環境をつくっていきます。
- ご家庭では引き続き、お子さまとの会話に心掛けてください。学習や将来のこと、日々の生活について家族と語り合いながら自分の考えをもつことはとても大切なことです。思春期を迎え、対話が難しくなってくる子どももいますが、自己有用感・自己効力感を高めるためには、学校と家庭と地域が相互に連携して、子どもを見守り育てていくことが大切です。

参 考 (令和4年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査結果から抜粋)

